

エコアクション21

2014年度 環境活動レポート

(2014年4月～2015年3月)

2015年6月10日 作成

八幡電機精工株式会社

I. 事業の概要

1. 事業所

- (1)名称 八幡電機精工株式会社 本社及び工場
(2)所在地 〒807-0801 北九州市八幡西区大字本城2805番地
TEL: 093-691-2331 FAX: 093-603-2556
<http://www.yawata.co.jp>

2. 関連事業所

- (1)名称 若松工場
(2)所在地 〒808-0109 北九州市若松区南二島4-13-14
TEL: 093-701-0500 FAX: 093-701-0506

3. 代表取締役社長 菊竹浩和

4. 環境管理責任者氏名及びEA21事務局担当者の連絡先

- (1)責任者 環境管理責任者 総務部長 栗野泰志
(2)担当者 EA21事務局 総務部 信近竜也
(3)連絡先 TEL: 093-691-2331 FAX: 093-603-2556

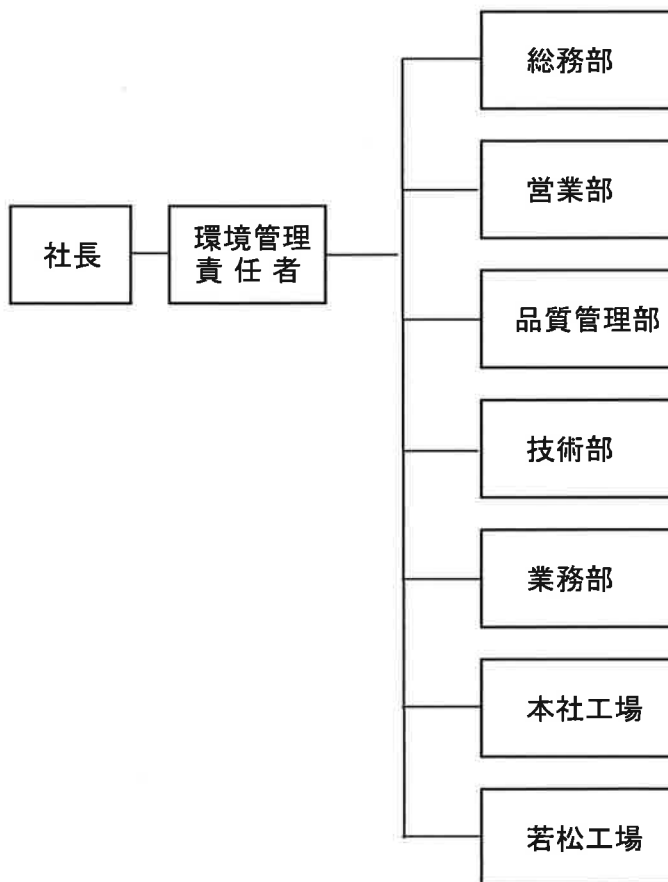
5. 事業内容

- (1)業種 電気機械器具製造及び販売業
(2)主力製品 [回転機]
・発電機(エンジン発電機・高周波電動発電機・直流発電機)
・電動機(かご形モータ・直流モータ・巻線形モータ・船舶用モータ)
・可変速電動機(インバータモータ・VSモータ・高速スピントルモータ)
・制御用電動機(ACサーボモータ・DCサーボモータ・半導体装置用モータ)
[自動機械・装置]
・発電装置(周波数変換装置・車載発電装置)
・病院設備(注射薬自動払出装置)
・水産設備(魚体選別機・ホヤ貝穴あけ機)

6. 事業規模

活動規模	単位	2012年度	2013年度	2014年度
売上高	百万円	2,690	2,548	2,771
従業員	人	158	159	158
敷地面積	m2	22,014	22,014	22,014
工場床面積	m2	6,237	6,237	6,237

7. 組織図



※ エコアクション21の取り組み範囲は全社を対象にします。

Ⅱ. 環境方針

《環境方針》

Ⅰ. 基本理念

八幡電機精工株式会社は、モータや発電機およびそれらを応用した装置製品の製造・販売の事業活動の中で、地球環境に配慮した企業となるために、次の行動指針を定め行動します。

Ⅱ. 行動指針

1. すべての事業活動の中で省資源・省エネルギーに努め、環境負荷の軽減に努めます。
具体的には次の6項目を全員で取り組みます。
 - ① 電力、化石燃料類の使用量を削減し、二酸化炭素排出量を抑制します。
 - ② 廃棄物の削減および分別収集により、環境負荷低減とリサイクルに努めます。
 - ③ 水使用量を削減します。
 - ④ 環境に配慮した部品や商品などのグリーン調達およびグリーン購入を推進します。
 - ⑤ 化学物質の使用量を削減し、環境負荷低減に努めます。
 - ⑥ 製造時の仕損削減に努めます。
2. 環境関連法規および当社が同意した各種協定を遵守します。
3. 環境方針を全職場に掲示し、すべての従業員に周知徹底します。
4. 環境教育や社内広報活動などを行い、環境保全活動の周知徹底に努めます。

2013年3月21日 改定

八幡電機精工株式会社

代表取締役社長 菊竹 浩和

Ⅲ. 環境目標

1. 2009年度以降の目標

(1) 2013年度以降は2010～2012年度の平均実績値をベースに毎年1%削減を目標とした

必須項目 (2010～12年度の実績値をベースとして削減する)	単位	2010～2012年度 平均実績	2013年度	2014年度	2015年度
二酸化炭素排出量の削減	Kg-CO2/百万円	558.9	553.3 (1%)	547.7 (2%)	542.1 (3%)
廃棄物総排出量の削減	Kg/百万円	19.77	19.57 (1%)	19.37 (2%)	19.18 (3%)
総排水量の削減	m3/百万円	0.880	0.871 (1%)	0.862 (2%)	0.853 (3%)
グリーン購入の推進	品目総数 (新規追加品目)	7.7	5	5	5
化学物質排出量の削減	Kg/百万円	3.246	3.213 (1%)	3.181 (2%)	3.148 (3%)

※二酸化炭素排出係数は過去分も含め九州電力の平成23年度の実排出係数(0.525)を使用しております。

Ⅳ. 主要な環境活動計画の内容

1. 二酸化炭素排出量の削減の取組み

(1) 電気使用量の削減

- ① エアコン設定温度の管理強化
- ② エアコンフィルターの定期的清掃の実施
- ③ 昼休みの空調間引き運転
- ④ 工場屋根遮熱塗装の実施
- ⑤ 昼休みの消灯
- ⑥ 省エネ型空調の導入
- ⑦ コンプレッサーのエア漏れチェックおよびエア漏れ予防の推進
- ⑧ トイレ、更衣室、厨房等の蛍光灯のこまめな消灯
- ⑨ 事務所キャリブスイッチによる帰社時の消灯徹底
- ⑩ LED照明機器への更新
- ⑪ 電化製品購入時の省エネ品選択
- ⑫ 電気炉の効率運転による節電

(2) ガソリン、軽油、重油使用量の削減

- ① 自動車のエコ運転実施(ガソリン、軽油)
- ② 高燃費社用車の優先使用による燃費向上
- ③ 焼鈍炉の焼鈍日設定、まとめ焼鈍による時間の効率化

2. 廃棄物排出量の削減の取組み

(1) 金属クズの削減

- ① 製造工程で排出される金属クズ(鉄・銅・アルミ等)の分別収集を実施する
(また有価物として売却した金属クズについては対象外とする)

(2) 紙クズの削減

- ① 全社に紙専用BOXを設置し分別収集を実施する
(また有価物として売却した紙クズについては対象外とする)
- ② 裏紙の再利用
- ③ 両面コピーの推進
- ④ 社内資料の裏紙の推進
- ⑤ 段ボールの分別収集実施
- ⑥ コピー機に製本機能追加し、複数枚コピー時の紙の使用数削減

3. 総排水量の削減の取組み

- (1) 節水による削減
 - ① 水道メーターチェックによる水漏れの確認
 - ② 水道蛇口の閉め忘れチェック
 - ③ 漏水箇所の修繕

4. グリーン調達及び購入の推進の取組み

- (1) グリーン調達及び購入の推進
 - ① 工場消耗品のエコ商品への切替
 - ② 作業材料のエコ商品への切替

5. 化学物質排出量の削減の取組み

- (1) 化学物質の削減
 - ① 在庫塗料使用による塗料の廃棄量削減
 - ② 洗浄液の再利用(濾過器設置)による購入量削減

6. 製造時の仕損削減の取組み

- (1) 帳票類の有効活用による仕損工数削減
 - ① 作業標準の遵守による仕損削減
 - ② チェックシート等の活用による仕損削減

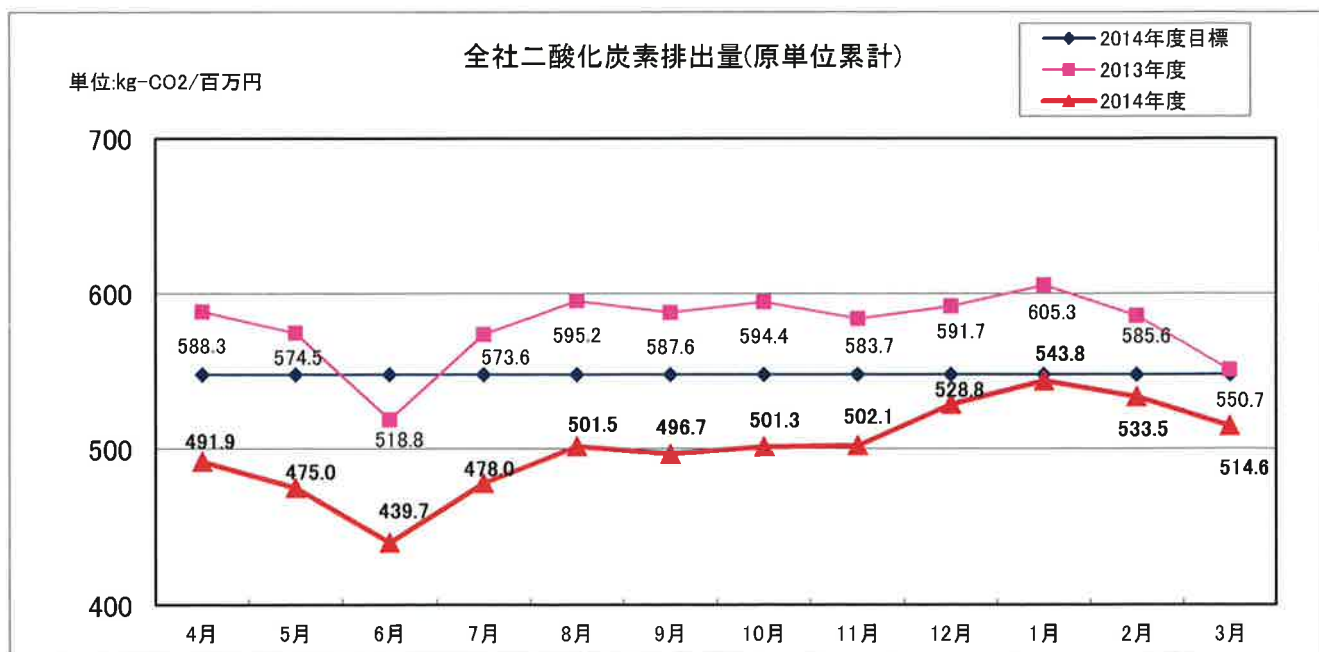
7. 環境保全活動の取組み

- (1) 本社、工場外周の清掃活動

V. 環境目標の実績

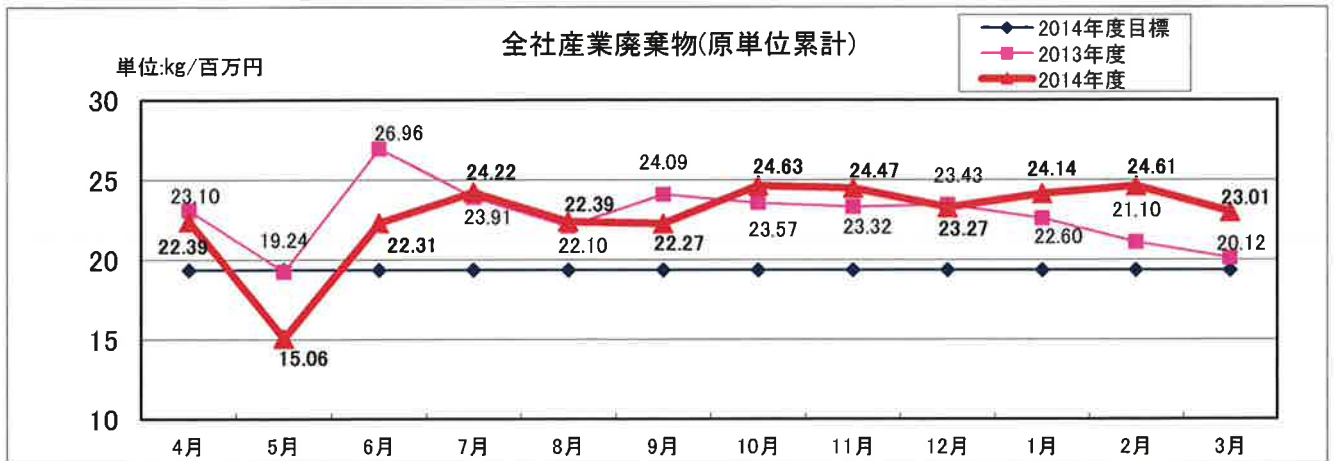
1. 二酸化炭素排出量の削減・・・目標達成

目標(547.7kg-CO₂/百万円)
実績(514.6kg-CO₂/百万円)



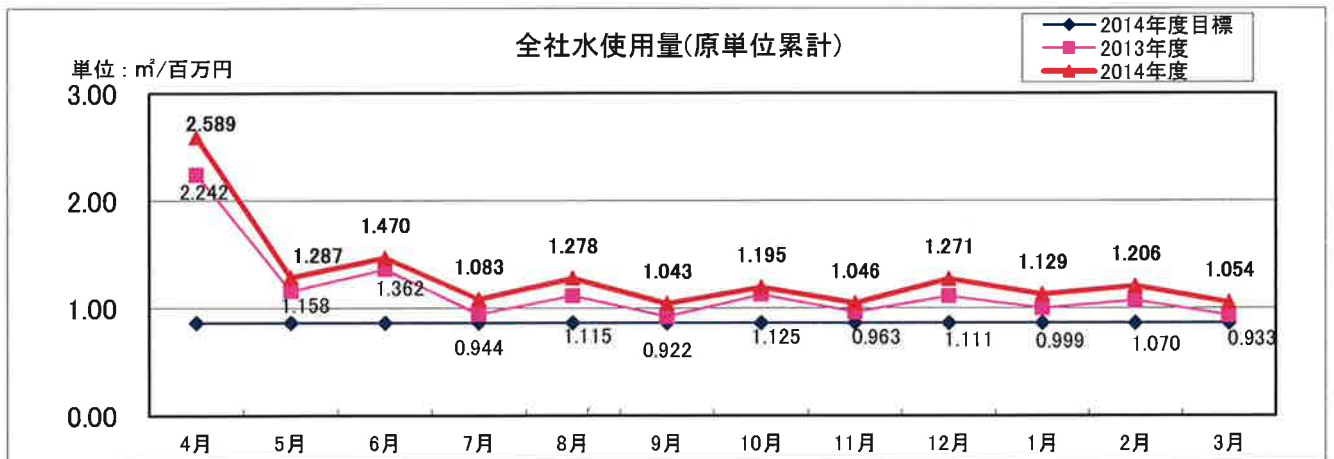
2. 廃棄物総排出量の削減・・・目標未達成

目標(19.37kg/百万円)
実績(23.01kg/百万円)



3. 総排水量の削減・・・目標未達成

目標(0.862m³/百万円)
実績(1.054m³/百万円)



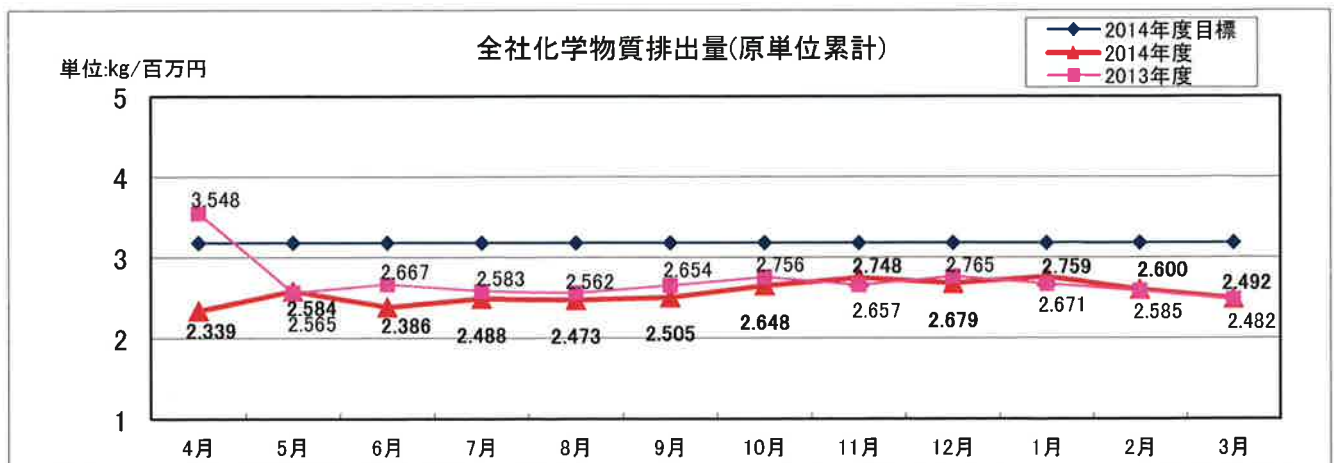
4. グリーン調達および購入の推進・・・目標達成

目標(新規品目5件)
実績(新規品目6件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規切替件数	1	1	1	1	0	1	0	0	0	0	1	0	6
累計切替件数	0	2	3	4	4	5	5	5	5	5	6	6	6

5. 化学物質排出量の削減・・・目標達成

目標(3.181kg/百万円)
実績(2.492kg/百万円)



VI.環境活動の取組結果の評価

2014年度については、IV項の環境活動を着実に実施しました。
実績については次の通りです。(下表参照ください)

必須項目	負荷量	2013年度 実績	2014年度		
			目標(A)	実績(B)	(B)/(A) (%)
年間売上高	(単位:百万円)	2,548		2,771	
二酸化炭素排出量	総量(Kg-CO2/年)	1,402,809		1,425,652	
	原単位(Kg-CO2/百万円)	550.6	547.7	514.5	93.9
主要 項目	電力使用量	総量(Kwh)	2,524,467	2,504,060	
		原単位(Kwh/百万円)	990.8	983.9	91.8
	A重油使用量	総量(リットル)	8,400	7,800	
		原単位(Kwh/百万円)	3.30	2.687	104.8
	ガソリン使用量	総量(リットル)	6,063	6,115	
		原単位(Kwh/百万円)	2.38	2.539	86.9
	軽油使用量	総量(リットル)	3,010	3,562	
		原単位(Kwh/百万円)	1.18	1.875	68.6
廃棄物総排出量	総量(Kg/年)	51,240		63,745	
	原単位(Kg/百万円)	20.1	19.37	23.0	118.8
総排水量	総量(m3/年)	2,377		2,921	
	原単位(m3/百万円)	0.933	0.862	1.054	122.3
グリーン調達及び 購入の推進	品目総数(新規調達)	20	5	6	120.0
化学物質排出量 の削減	総量(kg/年)	6,322		6,904	
	原単位(Kg/百万円)	2.481	3.181	2.492	78.3

※二酸化炭素排出係数は過去分も含め九州電力の平成23年度の実排出係数(0.525)を使用しております。

1. 二酸化炭素排出量の削減

2014年度は2010～2012年度の平均実績値をベースに2%削減を目標とした。第5工場のアルミ溶解炉を電気炉からガス炉へ更新したことで、エネルギー消費量が大幅に減少できたことや、継続している節電活動により目標を達成することができました。昨年に比べ売上高は増加したが、電力使用総量を対前年比1%削減できたため、目標を達成できました。

[主な活動]

(1) 電気使用量は、第5工場のアルミ溶解炉を電気炉からガス炉へ更新した。電気炉は24時間電源をつけたままの状態であったが、ガス炉へ更新後はアルミ溶解が1～2時間で済むため、作業後はスイッチをオフできるようになった。また、蛍光灯のこまめな消灯やエアコンの温度管理、コンプレッサーのエア漏れチェック、事務所蛍光灯キャノピスイッチでこまめな消灯を行い、目標を達成できました。

(2) A重油使用量は、焼鈍炉の効率運転の強化をしましたが、他社分の焼鈍増加で焼鈍運転時間の増加により、A重油購入量が削減できず、目標を達成できませんでした。

(3) ガソリン使用量は、電気自動車導入によるガソリン使用量削減、社用車のエコドライブの実施や高燃費社用車優先使用により、目標を達成できました。

(4) 軽油使用量は、エコドライブの推進により、目標を達成できました。

2. 廃棄物排出量の削減

紙の分別を強化しましたが、売上高の増加により仕事量が増加したことで、廃油抜き取り量が例年よりも約2倍増加したため、総排出量については、対前年比24.4%アップとなり、目標を達成できませんでした。

[主な活動]

(1) 紙クズについて、紙専用BOXを製造現場に設置し紙の分別収集強化とパトロールを実施しましたが、有価物として売却した紙クズは、対前年比3%減少となりました。

3. 総排水量の削減

ポスター掲示等で節水の徹底をしましたが、シャワー室蛇口閉め忘れによる数日間垂れ流しや水道管の漏水が発生したため、総排水量については、対前年比22.8%アップとなり、目標を達成できませんでした。

[主な活動]

(1) 水道の蛇口の閉め忘れチェック、節水のポスター掲示を行った。

(2) 漏水箇所の速やかな補修を行った。

(3) シャワーの垂れ流し発生後、シャワー室使用時は、総務部への許可制とした。

シャワーの垂れ流し発生後、毎日、水道メーターの確認を行って水使用量に異常値がないか確認した。

4. グリーン調達及び購入の推進

グリーン調達及び購入の推進強化により、目標を達成できました。

5. 化学物質排出量の削減

塗料の在庫引き当てによる管理や洗浄液再利用により、目標を達成できました。

[主な活動]

(1) 塗料の在庫管理強化により、廃棄塗料の減少の推進。

(2) 洗浄液は、洗浄液用の濾過器を設置し、洗浄液を再使用した。

6. 環境保全活動の取組み

環境保全活動として、会社周辺の側溝の清掃、ゴミ拾い、除草作業を実施した。

VII. 次年度の取組み内容

【二酸化炭素排出量削減の取組み】

①電力使用量・・・設備面では老朽化した空調や受電設備の更新など、計画的に進めていきます。

②A重油使用量・・・焼鈍炉の燃料を重油からガスへの切換えや温度管理の自動化など、設備面の見直しを行っていきます。

【廃棄物総排出量削減の取組み】

①現場に設置するゴミ箱を統一して、分別収集を強化し、目標を達成できるようにします。

【総排水量削減の取組み】

①毎日、水使用量の確認の継続と蛇口閉め忘れチェックの強化、漏水箇所の補修を徹底し、目標を達成できるようにします。

上記以外の取組みについても活動項目を決め、すべての項目で目標を達成できるよう努力していきます。

VIII. 違反、訴訟等の有無

当社の事業活動に関わる環境関連法規等の違反は過去3年間はありません。

また、関係機関からも特に指摘はなく、訴訟についてもありません。

IX. 経営の全体の評価と見直しについて

2014年度は、昨年に比べ売上高は約8.8%増加したものの、A重油使用量・廃棄物総排出量・総排水量については年度目標を下回る結果となりました。2015年度は、新機種移管による設備や人員の増加もあり、目標達成が困難になることが予想されますが、すべての項目で目標をクリアできるよう全従業員一丸となり、エコ活動の更なる強化をまいります。

2015年度も、引き続き設備投資で省エネができるものについては実行していき、採算を考慮しながら経費節減にも繋げていきたいと思っております。従業員に対しても節電や節水の教育を行い、省エネ化の取り組みを定着させていきます。

八幡電機精工株式会社

代表取締役社長 菊 竹 浩 和